

法人名：

株式会社 玉川サービス

設立年月日 平成3年10月22日

1 法人の概要

代表者職氏名	代表取締役社長 田口 知明	資本金	10,000千円	県出資等額及び比率	5,000千円 (50.0%)	所管部課名	観光文化スポーツ部観光戦略課
設立目的	秋田県のリゾート構想に基づき、玉川重点整備地区に民間宿泊施設及び自然公園施設が整備されることから、地区内の県有基盤施設の維持管理や給排水・給排湯施設の整備運営等を目的に、秋田県、仙北市、進出企業の出資により平成3年10月設立。						
事業概要	新玉川リゾート地区進出企業に対する玉川温泉の源泉供給管理及び給排水施設の運営管理、県営施設の指定管理等						
関連法令、県計画	「北緯40度シーズナルリゾート秋田」計画（指定区域）						
役員数 (R7.7.1現在)	理事		監査役		評議員		計
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤 非常勤
	1	4		1			1 5

役員と職員を兼ねている者の人数は、役員と職員の両方に計上し、職員数には括弧（内数）で表示。

2 法人の行動計画(令和4～7年度)

県関与のあり方	継続	経営状況	安定	取組の方向性	・安定的経営の継続
目標	新玉川地区温泉事業者の安定的な経営のため、事業者への滞りない給排水事業等を実施する。				
取組	温泉事業者への滞りない給排水事業等を実施するため、施設設備について随時修繕計画の見直しを行い、計画に基づいた修繕を実施する。また、修繕費用の積立を継続し、経営の安定を維持していく。 【R4年度】浄水場ソーダ灰注入器交換を行う。 【R5～7年度】修繕計画書に基づき、施設の適正な維持管理を実施する。				

3 財務

損益計算書		(単位:千円)	
区 分	令和5年度	令和6年度	
売上高	28,853	30,296	
売上原価			
売上総利益	28,853	30,296	
販売費及び一般管理費	28,389	30,089	
人件費(売上原価含む)	5,447	5,506	
営業利益(損失)	464	207	
営業外収益	1	3	
営業外費用	1	1	
経常利益(損失)	464	210	
特別利益			
特別損失			
法人税、住民税・事業税	173	113	
当期純利益(損失)	291	97	

貸借対照表		(単位:千円)	
区 分	令和5年度	令和6年度	
流動資産	26,542	22,016	
固定資産			
資産計	26,542	22,016	
流動負債	13,757	9,134	
短期借入金			
固定負債			
長期借入金			
負債計	13,757	9,134	
資本金	10,000	10,000	
利益剰余金等	2,785	2,882	
純資産計	12,785	12,882	
負債・純資産計	26,542	22,016	

端数処理の関係で合計が一致しない場合がある。

<主な経営指標>			
項 目	令和5年度	令和6年度	増減
経常収支比率 (経常収益÷経常費用)	101.6%	100.7%	0.9
流動比率 (流動資産÷流動負債)	192.9%	241.0%	+48.1
自己資本比率 (純資産計÷負債・純資産計)	48.2%	58.5%	+10.3
有利子負債比率 (有利子負債÷純資産計)			
端数処理の関係で増減が一致しないことがある。			
<退職給与引当状況(単位:千円)>			
要支給額	引当額	引当率(%)	
0	0	-	
要支給職員なし。			

県の財政的関与の状況(事業費補助・委託を除く)		(単位:千円)	
区 分	令和5年度	令和6年度	支出目的等
年間支出			
年度末残高			

運営状況評価表

(株2)

法人名：

株式会社 玉川サービス

自己評価

1 行動計画における目標及び取組の達成状況			2 経営状況		
<p>【令和6年度実績】</p> <p>修繕計画書に基づく、施設の適正な維持管理 ：当初計画した排水処理場の浄化槽原水ポンプ交換等の修繕に加え、故障した給水加圧ポンプ制御盤交換を追加で実施。 (前年度：浄水場原水濁度計交換ほか) ビジターセンター入館者数：6,859人(前年度7,027名、前年度比97.6%) ビジターセンター顧客満足度：83.8%(前年度：83.3%)</p>			<p>【令和6年度実績】</p> <p>営業収入：30,296千円(前年度：28,853千円) 経常利益：210千円(前年度：464千円) 当期純利益：97千円(前年度：291千円)</p>		
<p>【自己評価】</p> <p>施設・車両の老朽化により計画外の修繕が必要となるケースがあるものの、新玉川リゾート地区進出企業の営業に支障が生じることなくインフラを維持している。 ビジターセンターの入館者数は、主要展示物であるプロジェクションマッピングの故障が長期化したため、近隣宿泊施設が宿泊客に対してビジターセンター来訪を積極的に提案できなかったことから、法人の目標である8,000人に対して達成率85.7%となった。</p>			評価	A	
			【自己評価】	評価	A
			<p>営業収入は水道使用の徴収単価を151円/1㎡から160円/1㎡に引き上げたこと等により、前年に比べ1,444千円の増収となった。 当期純利益は老朽化した車両修繕費やエネルギーコスト高騰といった厳しい経営環境から減益を余儀なくされたものの、除雪業務の委託収入や水道使用の徴収単価を引き上げることで黒字を維持した。 有利子負債や累積損失はなく、財務内容に問題はない。 事業規模が小さいため、設備老朽化による修繕費負担が経営状況に影響を与えることから、計画的な修繕を実施していく必要がある。</p>		

所管課評価

1 行動計画における目標及び取組の達成状況			2 経営状況		
<p>【所管課評価】</p> <p>計画に基づいた修繕を実施しながら、計画外の設備修繕に柔軟に対応し、源泉供給管理及び給排水施設の運営管理を行っている。 ビジターセンター来場者数においてはプロジェクションマッピングの故障の影響で、法人の目標値を下回った(目標値比85.7%)が、自然を活用したクラフト教室や観察会を実施し、来場者数の維持(前年度比97.6%)に努めた。</p>			評価	A	
			【所管課評価】	評価	A
			<p>老朽化した設備の修繕費用や、電気料・車両燃料費の増加によって営業利益は減少しているが、当期純利益は引き続き黒字となった。借入金、累積損失もなく、経営状況は安定している。 施設設備の修繕費の多寡が経営状況に影響を与えるため、引き続き計画的な修繕を行う必要がある。</p>		

委員会評価

総合評価 法人全体の取組・運営状況に関するコメント	
A	施設の老朽化による計画外の修繕や、エネルギーコスト高騰等の影響から、昨年度より当期純利益が減少しているが、黒字を維持しており、安定した経営状況であると評価できる。 施設設備の修繕費の多寡が経営状況に影響を与えるため、引き続き予防的・計画的な修繕に取り組んでもらいたい。

【委員からの提言】

<p>ビジターセンターの入館者数についても、行動計画における目標に設定した上で、各温泉施設との連携を強化するなど、増加に向けて取り組んでもらいたい。</p>
--

委員会評価を踏まえた対応方針

法人の対応方針	所管課の対応方針
<p>計画的な修繕の実施や、安定した給排水事業・給排湯事業に取り組み、経営の安定化を図る。 ビジターセンターの入館者数についても、行動計画の目標に設定し、クラフト教室の開催等の取組により増加に向けて取り組んでいきたい。</p>	<p>安定した経営の維持と計画的な施設管理に努めさせるとともに、事業者への給排水事業等を滞りなく継続していくように働きかけていく。</p>